資料2

佐久平駅周辺再整備基本計画(案)に対する意見募集の実施結果

1 意見募集の概要

(1)募集期間　令和8年7月1日(水)から令和8年7月31日(金)まで

(2)公表方法　市ホームページ、市役所市民ホール(行政資料閲覧コーナー)、都市計画課、各支所経済建設係の窓口

(3)募集方法　郵送・電子メール・ファックス・ながの電子申請サービス・直接持参

2 意見募集の結果

(1)提出者数　16名

(2)提出件数　55件

佐久平駅周辺再整備基本計画(案)への提出された意見に対する市の考え方は以下のとおりです。基本計画に直接反映しないご意見についても、今後の設計、社会実験等に申し送りしてまいります。

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
1	何の変哲もない田舎の新幹線駅という第一印象です。交通結節機能は持ちつつも、ここでしばらく時間を潰そうとかゆっくりと買い物・散策をしようという居心地の良い空間がなく、魅力のある駅とは言い難い。 また、**ランドスケープに関する検討が不足しているので、魅せる空間整備**が行われていない。日本全国どこにでも見られる普通の駅前空間となっている。初めて訪れた人が**『この駅はすごいデザインと機能だな。』と思わせるような空間づくり**ができなければ現在の状況の打破は困難だと思います。また、駅舎を含め垂直モビリティ機能が劣るため高齢者にとっては利用しにくい環境であり、これからの時代、徹底したバリアフリー化が必要と考えます。	本計画(案)は、策定委員会において「居心地の良い空間」の創出や「利便性向上」を柱に議論を重ね、取りまとめられました。 ランドスケープデザインの洗練や、これからの時代に求められる徹底したバリアフリー化は佐久市の玄関口にふさわしい駅とするために重要な視点と認識しております。今後は、具体的な設計段階において、予算や実現性を考慮しながら、デザインや必要な機能について、十分に精査・反映してまいります。	1	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	全体の取り組みに「佐久らしさや洗練されたデザイン空間づくり」を追記
2	自動車アクセスの率が高いのに浅間口・蓼科口ともに送迎の車の待機スペースが絶対的に不足している。現在ある30分無料駐車場を完全に開放し送迎車の待機スペースとして再整備をして欲しい。	駅周辺における自動車アクセスの利便性向上、特に送迎車両の待機スペースの不足については、大きな課題として認識しております。駐車場の効率的な運用や待機スペースの拡充・再整備につきましては、駅前広場の交通円滑化や安全性の確保の観点を踏まえ、30分無料駐車場のあり方も含めて、関係機関などとの協議を行いながら効果的な配置や運用方法を検討してまいります。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
3	浅間口・蓼科口ともにメイン昇降口に上り・下りのエスカレータを設置してほしい。これは今後の高齢化社会においては必須事項。	高齢化社会に対応したバリアフリー化や利便性向上の観点から、メイン昇降口へのエスカレーター設置は有効な手段であると認識しております。一方で、多額の初期費用や維持管理コスト、駅全体の動線計画とのバランスを考慮する必要があるため、新設の是非や具体的な仕様について慎重に検討を進めてまいります。	1	自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
4	最近、駐車スペースの不足が著しい。東京への出張時にも車の置き場に苦労しています。周辺に新たな駐車場を整備する、あるいは浅間口の第二・第三駐車場を立体化するなど駐車台数を増やすことにより利便性が高まる。	駐車スペースの不足については、駅周辺の利便性を左右する重要な課題として認識しております。 ご提案の「駐車場の立体化」に関しましては、現在、浅間口の民間駐車場において立体化工事が予定されております。 また、既存スペースの有効活用として、本年5月と6月にイオンモール佐久平の従業員駐車場や佐久平交流センター第2駐車場の一部を対象とし、事前予約ができるシェアリングサービス「akippa」の運用が開始されました。民間事業者とも連携しながら、引き続き適切な駐車台数の確保に努めてまいります。 いただいたご意見を踏まえ、全体の整備対象範囲を拡張し、送迎用待機スペースや月極駐車場等の確保に向けた計画に見直しを図ります。	1	駅周辺	今回の基本計画に反映できる事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
5	現在のプラザ佐久は何も魅力もないエリアになっている。例えば**佐久の地場産品、あるいはヘルシーテラスなどで売っている新鮮な果物・野菜を置くなど、首都圏からの観光客を意識した店**にしてほしい。また基本計画に謳われているようなカフェ・ブックギャラリーの整備は賛成です。人がもっと長時間滞留できる施設にしてほしい。運行本数の少ない小海線であるからこそ、利用者が待ち時間を有効に過ごせるスペースが必要であり、例えば学生たちが集中して勉強できるスペースなどがあればよい。	プラザ佐久の機能更新につきましては、本計画(案)において「カフェ・ブックギャラリーの設置」「ワークスペースの充実」「食文化を味わう拠点整備」等を掲げております。ご意見をいただいた、新鮮な農産物や地場産品の充実、カフェ・ブックギャラリーの整備、また小海線の待ち時間を有効に活用できる学生向けの学習スペースなどにつきましては、本計画の目指す方向性と合致する重要な要素と認識しております。 いただいたご提案を参考に、令和9年度以降の設計や社会実験を通じ、具体的な導入機能や整備内容について検討を進めてまいります。	2,3	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	取り組み「食文化を味わえる拠点としての整備」を 「食を通じた交流・ブランド発信拠点の整備」へ変更 （「味わう」だけでなく、直売機能を設けるなど、売る側、買う側両方の地元住民が普段使いでき、交流を生むことができるように）
6	駅舎内あるいは駅舎横にアンテナショップ（季節によって入れ替わりOK）を複数設けてほしい。軽井沢のT-Siteのような施設がなぜ佐久平にできないのだろうか。特に浅間口ロータリー西側のスペースがほとんど活用されていないのが残念。JRとの協議は必要となりますが**小海線高架下のスペースを飲食店・アンテナショップなどに改装し人が集まりやすくするとともに、広場のスペースに人が集まるような施設**を設けてほしい。現状の樹木は一見きれいには見えるが、長い間過ごす空間にはなっていないのが残念。	駅周辺の未利用スペースや小海線高架下の活用は、新たな賑わいを創出する上で非常に効果的なアプローチであると考えております。魅力的な店舗の誘致や、人が集まり憩える広場空間の創出に向け、JR東日本をはじめとする関係機関と連携を図りながら、実現可能性を探ってまいります。	2	プラザ佐久 駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	ミレニアムパークでの取り組みに「高架下を含めた駅前広場との一体的な空間づくり」を追記
7	ミレニアムパークの利用度が低い。小諸市の停車場ガーデンのように気軽に市民が集い、くつろぎ、集まることができる空間にしてほしい。定期的なイベント開催スペース・フリーマーケット開催スペースなど。イオンなど付近の大型店に買い物に来た人がぶらっと歩いてみたくなるような空間にしてほしい。	ミレニアムパークが市民の皆様にとってより身近で、気軽に集い、くつろげる空間となるよう活性化させることは重要であると認識しております。 本計画(案)におきましては、駅施設だけでなく、ミレニアムパーク等を含むエリア全体の回遊性を向上させ、「居心地が良く歩きたくなる空間(ウォーカブル)」を創出することとしております。 ご提案いただいた定期的なイベントやフリーマーケットの開催などソフト面の活用策につきましては、社会実験や、官民連携による「エリアプラットフォーム」の構築の中で具体的な活用策を検討し、近隣の大型商業施設等を訪れた方が自然と足を延ばしたくなるような、回遊性と魅力ある空間づくりを進めてまいります。また、ミレニアムパークは駅前広場と一体的な再整備も検討できることから、全体の整備対象範囲を拡張した計画へ見直しを図ります。	他	駅周辺	今回の基本計画に反映できる事項	
8	さらなるインバウンドの増加に備えて案内板については**全て多言語化を図るとともにユニバーサルデザインの採用**はもちろんのこと、佐久市の魅力を発信できる設備の充実を望みます。	多言語化やユニバーサルデザインの導入、および魅力発信設備の充実については、駅周辺の利便性を高める上で重要な点として認識しております。具体的な案内表記の仕様や設備の設置にあたっては、視認性の確保や設置スペースなども総合的に勘案する必要があることから、いただいたご意見を今後の具体的な設計段階等における参考とさせていただきます。	3	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	バリアフリー化に加え、ユニバーサルデザインを全体の取り組みとして追記 駅前広場の取り組みイメージ「情報発信の強化」に「多様な利用者に配慮したユニバーサルデザインと取り入れた案内サインの整備」を追記
9	建築意匠・土木構造物のデザインに金をかけることを惜しまないでください。人間の感覚の9割は視覚から入ってくるといわれています。**人が集まる空間・居心地の良い空間にするにはこうしたデザインに最大限の配慮をする必要**があります。建築・土木関係の書物に紹介されるような洗練された21世紀にふさわしいデザイン空間にしてほしい。	洗練された建築・土木意匠は、居心地の良さや地域のシンボル性を高めるために重要と考えております。視覚的にも機能的にも優れた空間となるよう、専門家の知見も交えながら最大限の配慮をしてまいります。	他	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	基本方針別の取り組みに「佐久らしさや洗練されたデザイン空間づくり」を追記
10	目的と機能と利用する人の側にたった再整備を行ってください。たいへん耳障りなことを申しますが現在の夢佐久通りの設計は最悪です。車道を石畳舗装にしたのは理解できますが、歩道の植栽とベンチ配置はもっての外、車道に向かって腰かけ談笑したり食事をとったりする人がおりますでしょうか？どういった空間にしたいかという明確な意思と議論がなされないまま、設計コンサルタントの描いた設計図をそのまま何も考えずに造るからこういう結果になる。居心地の良い空間にするのであれば是非再整備をしてください。歩道の樹木やパラソルを囲みながら、例えば、近くのくら寿司をテイクアウトして家族や友達同士で食事でもできる空間を造るといった発想が必要だと思います。	貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 夢佐久通りのベンチや植栽等の空間構成につきましては、有識者等の意見を取り入れ、歩行者が留まれる空間として整備した経緯がございます。 夢佐久通り周辺は既存の施設を生かしつつ、本計画(案)において周辺エリアと一体的にまちづくりを行う範囲(ソフト面)に位置づけられております。 いただいた「テイクアウトなどを活用して家族や友人と楽しめる憩いの空間」という空間活用のアイデアや視点につきましては、今後の同エリアにおける賑わい創出やソフト事業、空間の利活用策などを検討する上での参考とさせていただきます。	他	駅周辺	その他（ソフト事業等により今後検討）	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
11	自由通路階段へのエスカレーター新設について 私は平日に通勤で佐久平駅を利用しており、主に浅間口側の自由通路階段を使用しております。 **エスカレーターは利用者にとって利便性の高い設備ではありますが、税金の効率的な活用という観点からは慎重な検討が必要**ではないかと考えます。 エスカレーターの設置には多額の初期費用が必要となるほか、運転に伴う電気料金、日常的な点検・清掃、定期的な保守更新などの維持管理費も継続的に発生します。また、老朽化に伴う全面更新には、設置時に近い規模の費用が必要となることも想定されます。 このような事情から、**近年は維持管理コストの観点でエスカレーターの設置や更新について慎重に検討する傾向も見受けられます。**今回の計画では、プラザ佐久内のエスカレーターを上階まで延伸する構想も示されていますが、その場合、蓼科口側自由通路階段へのエスカレーター設置は機能が重複する可能性があります。結果として、過大な投資や将来的な維持管理負担につながる懸念があります。 さらに、蓼科口側にエスカレーターを設置すると利用者の動線がそちらへ集中し、プラザ佐久を経由する人の流れが減少する可能性があります。これは、プラザ佐久の賑わい創出という計画の目的とも相反するのではないでしょうか。 そのため、プラザ佐久内のエスカレーターを活用しつつ、案内サイン等による適切な誘導を行うことで、蓼科口側への新設を見送るという選択肢も検討に値すると考えます。 なお、バリアフリーの観点では、エスカレーターではなく車いす利用者等も利用できるエレベーターが本来その役割を担う設備であるため、エレベーターへの分かりやすい誘導を充実させることも重要であると考えます。	自由通路階段へのエスカレーター新設については、将来的な維持管理コストや財政負担、プラザ佐久内のエスカレーター延伸との機能重複、動線の偏りに伴う賑わいへの影響など、多角的な視点からの慎重な検討が必要な課題であると認識しております。 今後、設計業務の中で、設置・維持管理に係る費用対効果や施設全体の賑わい動線、既存エレベーターの活用・誘導策などを総合的に検証し判断してまいります。	1	自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	「整備については、構造条件や維持管理コストを踏まえた検証」を計画に追加
12	プラザ佐久へのカフェ・立ち飲みバー等の導入について カフェや立ち飲みバーなどの飲食施設は賑わい創出に寄与する可能性がある一方で、整備費用や運営コストを要し、また時代による嗜好の変化や流行の影響も受けやすい業態であると考えます。そのため、特定の用途に固定化した内装や設備を過度に整備するのではなく、将来的な用途変更やテナント入れ替えに柔軟に対応できるような設計・施工としておくことが望ましいと思います。社会情勢や利用者ニーズの変化に応じて比較的容易に改修できる空間としておくことで、長期的な施設価値の維持につながるのではないでしょうか。	飲食施設等の導入にあたり、将来の社会情勢やニーズの変化、テナントの入れ替えを見据えた「可変性・柔軟性のある設計・施工」とするべきとの視点は、長期的な施設経営の観点から重要と認識しております。特定の用途や内装に過度に固定化せず、時代や流行に応じて比較的容易に改修や用途変更ができるような、柔軟性の高い空間設計に配慮してまいります。	2	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
13	地域の学校とのタイアップについて 現在も自由通路において、地域の学校と連携した壁画、書作品、プランター展示などが行われておりますが、これらをプラザ佐久内で企画展示する仕組みを設けてはどうかと考えます。地域の児童・生徒の作品を定期的に展示することで、家族や地域住 民がプラザ佐久を訪れるきっかけとなり、施設への愛着や利用促進にもつながるものと思われます。一方で、自由通路は本来、人の往来を円滑に行うための空間であるため、展示による賑わいは必ずしも適切とは限りません。混雑の要因となる可能性もあり、通路としての機能との両立が課題となります。 そのため、自由通路についてはプラザ佐久への案内や情報発信機能を中心とし、企画展示や交流による賑わいの創出はプラザ佐久内で行う方が、地域活性化や経済効果の面でもより有効ではないかと考えます。	自由通路での学校作品や市の花「コスモス」のプランター等の展示は、児童・生徒の励みや、来訪者に「佐久らしさ」を感じていただく役割を果たしている一方で、安全な通行機能の確保も重要であると認識しております。 安全性と展示効果を両立できるよう、学校等のご意向も伺いながら、自由通路とプラザ佐久それぞれにおける適切な役割分担や活用方法について検討を進めてまいります。	3	自由通路	その他（ソフト事業等により今後検討）	
14	駅周辺における雨よけ屋根（ペデストリアンデッキや通路）の設置について 意見: 佐久平駅の駅前周辺には雨を避ける屋根がないため、悪天候時に濡れてしまい不便に感じています。「立ち寄りたくなる場所」「快適に滞在できる場所」を目指すにあたり、駅から周辺施設や駐車場、送迎スペースへ濡れずに移動できる連続した屋根（キャノピー）や通路を整備していただきたいです。	本計画（案）におきましても、駅前広場における主な取組イメージに等「屋根の連続化（シェルター設置）」と記載していますが、設計段階において設置に伴うコストや景観への影響、安全性を考慮しながら、整備の可能性や効果的な配置範囲について検討してまいります。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
15	バス停留所の集約・統合について 意見: 現在、バスの発着本数があまり多くないにもかかわらず、バス停が3箇所に分散しており、利用者にとって分かりにくく非効率だと感じます。利便性の向上と駅前空間の有効活用のため、バス停を1、2箇所に統合・集約し、分かりやすい乗降場（交通結節点）として再整備することを提案します。	交通結節点としての利便性向上や、利用者にとって分かりやすい駅前空間の確保は、再整備における重要な視点であると考えております。 バス停留所の集約・統合などの具体的な配置計画につきましては、運行事業者や交通管理者などの関係機関との緊密な協議・調整が必要となることから、いただいたご意見を今後の計画策定や具体的な設計の参考とさせていただきます。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
16	周辺商業施設(イオンモール佐久平など)とのアクセス向上について 意見: 駅から「イオンモール佐久平」などの近隣商業施設へスムーズに移動できるよう、連絡通路(ペデストリアンデッキや安全な歩行者専用道路)を設けるなど、歩行者の回遊性と利便性を高める動線計画を盛り込んでほしいです。	駅周辺から近隣商業施設への安全かつスムーズな移動ルートの確保や回遊性の向上は、本計画(案)で目指す「歩きたくなる空間づくり(ウォーカブル)」の観点からも検討すべき課題の一つです。立体連絡通路等の新設につきましては、財政負担や地上構造上の課題が大きいため、本計画(案)におきましては、駅前広場等の整備や周辺での社会実験やエリアプラットフォーム等のソフト施策を通じ、エリア全体で快適に回遊できる環境づくりを進めてまいります。	1	駅前広場	実現・計画に反映が困難な事項	
17	小海線ホームへのアクセス改善および乗り換え負担の軽減について 意見: 新幹線改札から小海線ホームまでの距離が長く、上り下りもあるため、高齢者や荷物の多い旅行者、毎日の通学生にとって移動の負担が大きいです。 具体的な要望: ・長い連絡通路への「動く歩道」の設置や、バリアフリー動線の強化を検討してください。通路の壁面や床面を活用したデザイン工夫により、心理的な遠さを解消してほしいです。また、ハード面の整備とあわせて、新幹線と小海線の乗り換え時間がスムーズになるようなダイヤの接続改善を、市からJRへ強く働きかけていただきたいです。 ・駅外(浅間口・蓼科口側)から小海線ホームへ直接入れる専用通路・簡易改札の設置 提案: 駅の周辺(例えばイオン側やロータリー側)から、新幹線の建物を通らずに直接小海線ホームへ上がれる屋外階段や専用スロープ(ショートカット通路)を作ってほしい。	新幹線と小海線の乗り換え利便性の向上や、ホームへのアクセス負担の軽減については、駅の利用環境を改善する上での重要な視点の一つとして認識しております。ご提案のありましたダイヤの接続改善や、動く歩道・直接通路等のハード整備につきましては、いずれも鉄道事業者(JR東日本)の運行・施設管理に関わる事項でございます。 いただいた貴重なご意見・ご提案につきましては、関係機関協議等の場を通じて鉄道事業者(JR東日本)へ情報共有・要望を行ってまいります。	1	自由通路	他事業者が行う事項	
18	佐久市の持続的な発展と人口増加に向け、御代田駅、平原駅間の小田井地区にしなの鉄道の新駅((仮称)佐久市駅)を設置することを提案いたします。また、それに伴い周辺の西屋敷地区等の農地を計画的に住宅用地へと造成・転換することを要望します。 【提案の理由と期待される効果】 通勤利便性の向上と渋滞緩和: 同地区にはTDKをはじめとする重要拠点があり、多くの従業員が通勤しています。新駅ができることで公共交通機関での通勤が可能となり、周辺道路の朝夕の渋滞緩和や、企業の環境負荷軽減に貢献します。 移住・定住の受け皿づくり: 現在、佐久平駅周辺の地価高騰や住宅地不足が見られる中、西屋敷地区一帯を新駅と連動した新興住宅地として整備すれば、働く場所に隣接した「職住近接」の魅力的なエリアとなり、子育て世代などの人口流入を強力に後押しできます。 地域の活性化: 現状は農地が多いエリアですが、駅を中心とした街づくりを進めることで、西屋敷・小田井地区全体の回遊性と活性化につながり、佐久市の新たな発展の核になると確信しています。 ぜひ、市の長期的な都市計画(都市計画マスタープラン等)において、新駅設置の可能性としなの鉄道への働きかけ、および周辺の土地利用の見直しについてご検討をお願いいたします。	しなの鉄道の新駅設置や周辺の農地転換による住宅地造成のご提案は、通勤利便性の向上や人口増加、地域活性化の観点から大変貴重なご意見と考えております。ご意見の内容は「佐久平駅周辺再整備基本計画(案)」の直接的な対象エリア外となりますが、市全体の長期的な都市づくりの指針である「都市計画マスタープラン」や公共交通に関わる関係部署と共有し、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	他	他	実現・計画に反映が困難な事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
19	蓼科口ロータリー入口および出口交差点への横断歩道の早期設置について 現状の課題と危険性： 現在、「蓼科口ロータリー入口（タクシープール付近交差点）」および「蓼科口ロータリー出口（第1駐車場前交差点）」において、歩行者が安全に道路を渡るための横断歩道が設置されていません。 現地には点字ブロックが敷設されており、歩行者が横断することを前提とした構造になっているにもかかわらず、肝心の横断歩道（白線や標識）がないため、駅利用者や歩行者が車の間を縫うように乱横断せざるを得ない非常に危険な状態となっています。 具体的な要望： 高齢者、子ども、視覚障害者を含むすべての駅利用者が安心して安全に移動できるよう、上記2箇所の交差点（ロータリー入口・出口）への横断歩道の早期設置を強く要望します。 今回の再整備基本計画において「歩行者の安全確保とバリアフリー化」を最優先課題として位置付け、市が主導して警察等の関係機関と速やかに協議・調整を進めていただくようお願いいたします。	歩行者の安全確保やバリアフリー化は、本事業における重要な課題と認識しております。 ロータリー出入口における横断環境につきましては、車両の交通状況や公安委員会の設置基準等を勘案し、最も安全な対策を講じる必要がございます。 今後予定している設計業務において、安全な横断位置の設定や誘導策などを含め、警察等の関係機関と適切な安全対策について協議・調整を図ってまいります。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
20	バスタ新宿のようなバスターミナルを作ってほしい。	大規模なバスターミナルの整備につきましては、佐久平駅の利用規模や多額の財政負担、敷地条件等の理由から困難でございます。しかしながら、バス利用者の利便性向上は重要な課題と認識しておりますので、駅前広場の再整備の中で快適で利用しやすいバス乗り場の形成を目指してまいります。	他	他	実現・計画に反映が困難な事項	
21	大型室内公園を作ってほしい。佐久市には、公園がいくつかあります。子ども達とよく行きます。しかし、ここ最近の酷暑で遊具自体が熱くなったりして、行く事を躊躇してしまいます。天候に左右されず、大人・子供たちが安心・安全に遊べるような大型室内公園施設を作ってほしい。	本計画（案）は駅周辺の既存施設の活用・再整備を対象としており、敷地制約等の観点から新たな大型室内公園を整備することは予定しておりません。しかしながら、子育て世代をはじめ多様な利用者が快適に滞在できる空間づくりの視点につきましては、プラザ佐久などの既存施設のリニューアルにおける機能やスペース活用のあり方を検討する上での参考とさせていただきます。	他	他	実現・計画に反映が困難な事項	
22	大型アミューズメント施設を作ってほしい。佐久平駅周辺は商業施設等はあるが娯楽施設がないため、ラウンドワンのような施設が必要である。	大規模なアミューズメント施設（娯楽施設）の整備・運営につきましては、基本的には民間事業者による事業であり、本計画（案）は公共施設の再整備を対象としていることから、市での建設は予定しておりません。一方で、多世代が集い楽しめる賑わいづくりは重要と認識しておりますので、プラザ佐久のリニューアルや官民連携の取組を通じ、魅力ある駅前空間の形成を目指してまいります。	他	他	実現・計画に反映が困難な事項	
23	太陽光発電の導入：佐久市の特徴である高い晴天率を生かし、施設屋根上への太陽光パネル設置を提案します。施設内での電力消費を賄うだけでなく、売電収入を運営費に充てることで、環境配慮と駅の持続可能性を両立させた「佐久らしさ」を体現するポテンシャルになります。	晴天率の高さを生かした太陽光発電設備の導入など、環境に配慮した持続可能な空間づくりは重要な視点と認識しております。導入にあたっては、初期投資や維持管理コストのほか、既存建物の耐荷重構造や受変電設備等との技術的な整合性を検証する必要があることから、今後の具体的な設計段階における検討の参考とさせていただきます。	他	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
24	エリアプラットフォームの機能強化：**計画案にある「エリアプラットフォーム」には、単なる調整の場を超え、コミュニティ運営団体としての機能**を持たせてください。地域の調整役や観光案内を担う「駅の顔」となる人材を配置し、その運営費は前述の売電収入のほか、駐車場・広告・イベントスペースの収益を充てる仕組みを構築すべきです。	官民連携による持続可能なエリアマネジメントの推進や自立的な財源確保の手法は重要な検討要素であると認識しており、いただいた組織機能や収益モデルに関するご意見につきましては、今後のエリアプラットフォームの組織化・具体化に向けた検討の参考とさせていただきます。	2	全体	その他（ソフト事業等により今後検討）	実現に向けた実施体制に、 また、「収益を運営費に充てる仕組み」や「持続的にまちづくりを推進する運営体制」についても議論を進めます。 と追記

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
25	「逆開発」による環境整備：徒歩移動を促すため、コンクリートやアスファルトを減らし、植栽を増やす「逆開発」的なアプローチが必要です。特に蓼科口はミレニアムパークとの一体感を創出し、農園や花壇、芝生など自然を感じられるエリアにすべきです。	本計画（案）におきましても、「みどり豊かで環境の良い空間づくり」を掲げ、快適で居心地の良い駅前空間の形成を進めることとしております。緑地の配置にあたっては、歩行者の安全性やバリアフリー機能の維持、および今後の維持管理等を総合的に勘案しながら、今後の具体的な設計段階等における検討の参考とさせていただきます。	2,3	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
26	日陰と涼の提供：夏場の暑さ対策として、アーケードの設置やミスト噴射装置の導入を検討してください。	暑さ対策や「涼」の提供は、快適な駅前空間を形成する上で重要な視点と受け止めております。 本計画（案）ではシェルター（屋根）の設置や緑化推進を盛り込んでおり、ご提案いただいたミスト噴射装置等の設備導入につきましても、設置費用および継続的な維持管理コスト、安全面や施工上の課題等を総合的に勘案しつつ、今後の具体的な設計段階等における検討の参考とさせていただきます。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
27	車両乗り入れ制限の検討：駅周辺内部への自家用車乗り入れを、障害者用車両・公共交通（バス・タクシー）・EV車に限定し、一般駐車場は周辺外部に整備することで、よりウォーカブルで環境に優しい街への移行を促進すべきです。	佐久平駅は広域交通拠点として一般自家用車の送迎需要も大きいため、乗り入れ制限を行うことは困難ですが、歩行者の安全確保やバリアフリーの推進は重要と認識しております。環境に優しく過ごしやすい空間づくりや歩行者の安全確保は重要な課題と受け止め、安全で快適な駅前広場の形成に向け、今後の設計段階等や関係機関との協議における検討の参考とさせていただきます。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
28	送迎車両の分散：現在深刻な蓼科口の送迎渋滞に対し、浅間口との機能分散を提案します。一般車の送迎を浅間口に限定する、あるいはバス・タクシーの乗降場を一部浅間口へ移設するなど、両出口のバランス調整による混雑緩和を図ってください。	車両出口のアクセス性が異なる中での機能制限や大規模な移設には慎重な検討を要しますが、蓼科口の混雑緩和は重要課題と認識しております。 本計画（案）で盛り込んでいる「送迎スペースの拡張」や「適切な車両誘導」に基づき、今後の具体的な設計段階等において検討してまいります。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
29	地域資源の活用：森林資源を活かし、内装には地域の木材を使用し、木の温もりを感じる空間にしてください。併せて、照明の色使いを温かみのあるものに変更することを提案します。	地域資源である木材の活用や、温かみのある空間演出による魅力向上については、佐久市らしさを創出する上での視点の一つとして認識しております。内装材への木材利用や照明計画の詳細につきましては、耐久性、防火性、維持管理面、および施工コスト等を総合的に勘案しながら、今後の具体的な設計段階における検討の参考とさせていただきます。	3	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
30	農産物直売機能の充実：プラザ佐久において、従**来の土産品だけでなく、新鮮な高原野菜等の直売所機能**を追加してください。売れ残りを寄付できる「お裾分け」の仕組みを導入することでフードロス対策にもなり、**観光客だけでなく地元住民が日常使いできる場を目指すべき**です。	プラザ佐久の機能更新にあたっては、従来の土産品販売にとどまらず、地域の魅力を発信し、地元の方々も立ち寄りやすい環境づくりが重要と認識しております。 直売所機能の導入につきましては、運営主体の事業性や周辺店舗との役割分担、日常的な利用需要等を勘案しつつ、今後のプラザ佐久の機能更新および施設運営を計画する上で参考とさせていただきます。	3	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	取り組み「食文化を味わえる拠点としての整備」を 「食を通じた交流・ブランド発信拠点の整備」へ変更 （「味わう」だけでなく、直売機能を設けるなど、売る側、買う側両方の地元住民が普段使いでき、交流を生むことができるように）
31	景観の保護と活用：浅間山や八ヶ岳への眺望を守るため、駅周辺の建築物に対する高さ規制を検討してください。また、「ここからなら綺麗に見える」というフォトスポットの設置や、地上から新幹線が鑑賞できる場所の確保も重要です。現在の蓼科口の植栽を南側に寄せることで、広場に木陰を作りつつ、新幹線の視認性も向上させることが可能です。	良好な眺望確保等は、駅周辺の魅力向上に資する視点として認識しております。なお、建築物に対する高さ制限等の法的規制につきましては都市計画全体における慎重な議論を要しますが、フォトスポットの設置や視認性に配慮した配置計画につきましては、今後の具体的な設計段階等における検討の参考とさせていただきます。	3	駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
32	動的な情報発信：プラザ佐久内のデジタルサイネージ等で、市民が投稿した四季折々の景色の投影を提案します。固定的な紹介動画ではなく、市民参加型の仕組みにすることで、マンネリ化を防ぎ、リアルな佐久の魅力を伝えられます。地域イベント情報の発信にも活用することで、地域情報発信のプラットフォームのような位置づけも狙えます。ぜひFM佐久平とも連携してください。	コンテンツの運用体制や更新コスト、権利関係の整理等を考慮しながら、今後のプラザ佐久における情報発信機能やソフト事業の検討の参考とさせていただきます。	3	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
33	**予算の最適化：計画案にあるエスカレーターの改修は不要と考えます。既存のエスカレーター・エレベーターで最低限の範囲はカバー出来ています。**健康長寿の都市らしく健康な方は階段を利用しましょう。その予算は他の取り組みに充ててください。	健康長寿の推進や予算の最適化に関する視点は大変重要であると認識しております。 一方で、佐久平駅は高齢者や子育て世代、大型の手荷物を抱えた方など、多様な利用者が行き交う広域交通拠点であり、誰もが安全かつ円滑に移動できる環境づくりが求められております。このようなことも踏まえ、実際の整備にあたっては、今後の設計業務の中で機能や事業費の精査を行い、過剰な設備とならないよう効率的な予算執行に努めてまいります。	1	自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	「整備については、構造条件や維持管理コストを踏まえた検証」を計画に追加
34	ワークスペースと図書機能：計画されているワークスペースやブックカフェには、図書館の分館機能を持たせ、地域の蔵書を活用した低コストな運営を期待します。地域色のある書籍を配置することで佐久らしさの演出にもつながります。	市立図書館等との連携や蔵書の活用につきましては、既存の図書館機能との役割分担、運営体制、システム上の課題等を整理しつつ、今後の具体的な設計および運営を検討する上での参考とさせていただきます。	2,3	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
35	早朝・夜間の利便性：現在の課題である早朝・夜間の飲食提供不足を解消するため、営業時間の拡大や無人販売、キッチンカーの誘致などを検討してください。またプラザ佐久の出入り口が蓼科口階段下という閉鎖的な箇所に1か所しかないことも問題です。蓼科口東側の広場からも出入りするようにすることで、出入りしやすい開放感とともに利用率向上に寄与するでしょう。	早朝の飲食提供については、現在もプラザ佐久の開店前に週2回のキッチンカー出店を実施しております。今後はこの実績や社会実験を踏まえ、早朝・夜間の利便性向上や機能更新の検討を進めてまいります。 また、プラザ佐久の出入り口や東側広場からのアクセス改善につきましては、本計画(案)におきましても、プラザ佐久の主な取組イメージに「1階店舗の窓を駅前広場側に開閉できるようにし開放感を向上」と記載していますが、今後の設計段階等において、具体的な検討を進めてまいります。	2	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
36	駅周辺樹木の管理と排水処理について 駅の蓼科口・浅間口周辺には開業当時に植樹された樹木がたくさんあるが、手入れがされないまま伸び放題の状態で放置されているため、樹木が大きくなるに連れ大量の落ち葉が発生し年々増加している。この落ち葉があらゆる所に堆積し、風の強さや方向次第で駅のホームやプラザ佐久入口、大階段等にも舞い込んだりし、お客さまの印象を悪くしているばかりか、秋～冬のトップシーズンだけではなく一年を通して片付けに追われている。また、落ち葉が駅舎屋根上の排水管を詰まらせ、ゲリラ豪雨の際には排水処理が追い付かず、逃げ場を失った大量の雨水が駅の上り・下りホームの喫煙室や下りホームエスカレーター（上り口）、自由通路など へ滝のように溢れだし、鉄道や施設利用のお客さまに多大なご迷惑と不快の念を与えている。せっかく再整備計画で利便性や快適性を向上させるのであれば、施設関連の部分最適だけではなく周辺環境の検証も含め全体最適になるよう検討していただきたい。 ・以上のことが常態化し管理が行き届いていない実態から、開業当時に植樹され管理が及ばず大型化した樹木については思い切って伐採するか、管理ができる範囲の背丈に縮小するなどし、佐久平らしい爽やかな景観が保てるよう行政で責任を持って定期的に落ち葉の処理を行う仕組みを構築していただきたい。 ・数年前に蓼科口に植樹した樹木については、これ以上大きくなり過ぎないよう管理を徹底していただきたい。 ・駅舎の排水管についても点検し新しいものに交換するか、気候変動の影響で大量に雨水が発生し得る昨今の気象状況を鑑み、現行よりも太い排水管に交換していただきたい。	広場の再整備に向けた今後の設計段階においては、景観や安全性の確保だけでなく、将来にわたる剪定・清掃等の維持管理負荷や運営体制の検討を深め、計画的な管理が可能な空間形成に努めてまいります。 駅舎の排水管等の設備改修に関わるご意見につきましては、鉄道事業者（JR東日本）をはじめとする施設管理者および庁内関係部署へ情報を共有し、適切な環境維持に向けた連携を図ってまいります。	他	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
					他事業者が行う事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
37	蓼科口・浅間口の大階段の修復について 開業以来の経年劣化により、階段踏面の床材が割れたりするなどかなり損傷が進んでいる。エスカレーター設置に伴う付帯工事として、大階段についても併せて踏面の貼り替え工事をしていただきたい。	危険箇所の応急的な補修等については施設管理者へ情報伝達し、適切に対応を図るとともに、階段全体の本格的な改修につきましては、今後の具体的な設計段階において、動線計画や施設全体の整備内容とあわせて検討してまいります。	1	自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
38	喫煙所の新設について 佐久平駅とプラザ佐久においては、喫煙所は駅の上り・下りホームにそれぞれ1箇所の計2箇所にあるだけで、改札を出てしまうとどこにも設置されていない状態である。喫煙場所に対する問合せや要望も多く、また、隠れて喫煙された方の吸い殻が施設建物外や自由通路の物陰、駅前広場等に落ちているのが散見され、見た目の印象が低下するばかりか、場合によっては火災につながる恐れもあるため、蓼科口か浅間口のどちらかに新設し行政で管理していただきたい。	屋外喫煙所の新設につきましては、受動喫煙防止の観点や歩行者動線、設置場所の確保、今後の維持管理体制などの検討を重ねながら、駅周辺の環境美化および火災防止等の観点を含め、今後の検討の参考とさせていただきます。	1	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
39	駅周辺の観光資源の再整備 セブンイレブン佐久長土呂北店からあむあむビレッジの方面へ進むと見えてくる聖橋ですが、素敵な鯉の像があるのに老朽化で路面がガタガタしていて散歩しにくかったり、仙禄湖という湖も草がぼうぼうに生い茂っていたりします。駅から車で10分もしない場所なので、観光資源としても再整備してほしいと強く願っています。	ご意見をいただきました聖橋や仙禄湖周辺の環境整備につきましては、本計画(案)の直接的な再整備対象区域外となりますが、道路や公園等を管理する担当部署へ情報を共有し、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	他	他	実現・計画に反映が困難な事項	
40	駅周辺に飲食店を併設 駅構内周辺に五郎兵衛米や地元野菜、果物などをつかった飲食店を入れてほしいです。	地元食材を提供する飲食店舗の導入につきましては、民間事業者の出店意向や採算性などを勘案しつつ、プラザ佐久等の既存施設における機能更新を検討する上での参考とさせていただきます。	3	駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
41	鯉をモチーフにした遊具 駅周辺に、鯉をモチーフにした子どもが遊べる遊具があると見た目も楽しいし、待ち時間を子どもも楽しめると思います。	地域性を演出する広場設備や遊具の配置にあたっては、設置スペースや安全性、維持管理面を考慮しながら、今後の具体的な設計段階等における検討の参考とさせていただきます。	3	駅前広場	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
42	ここ数年「教育移住」などをきっかけにたくさんの親子連れや観光客が佐久平駅を訪れていることが推察されます。軽井沢駅や長野駅周辺を見ると、「荷物預かり所」のサービスが展開されています。新幹線などに乗る際も、次の移動先(宿泊先や空港など)への荷物を輸送してくれるよう運送会社と提携することでより利便性を高め、駅構内ならびにその周辺での観光消費額の向上にも寄与できるのではと考えます。	荷物預かり所等の導入につきましては、事業性や必要となるスペースの確保、事業者・運送会社等の意向などを勘案しつつ、今後のプラザ佐久の機能更新や施設運営を検討する上での参考とさせていただきます。	1	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
43	小諸観光局のような佐久管内のDMO組織の方が、佐久平駅構内にも配置し小海線・環八ケ岳協議会などの観光情報やイベント情報などを集約し、情報発信できている(デジタルサイネージなどでよい)場になっていると嬉しい。同時に起業・創業したい方のチャレンジの場としても活用できる場があると尚良いと感じました。	DMO等の関係機関と連携した情報発信の仕組みや、新たなビジネス・出店に向けたチャレンジの場に活用できるスペースの創出につきましては、社会実験などの機会も捉えながら、今後の具体的な設計および運営を検討する上での参考とさせていただきます。	3	プラザ佐久	その他（ソフト事業等により今後検討）	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
	1. 現状と課題 (1)駅前に人の流れはあるが、人の滞在がない 佐久平駅には、新幹線利用者、通勤・通学者、ホテル利用者、イオンモール利用者など、多くの人が訪れています。しかし、 ・駅からホテルへ向かう人 ・駅から駐車場へ向かう人 ・駅からイオンモールへ向かう人 など、それぞれが目的地へ直接向かい、駅前で滞在したり回遊したりする流れがほとんどありません。 駅前が「目的地」ではなく、「通過点」となっています。	1, 現状と課題に対する市の考え方 本計画(案)においても重要な検討テーマとして捉え、駅前が単なる移動の場にとどまらず、居心地良く滞在できる空間の創出を目指して検討を進めております。	2	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
	(2)街としての一体感がなく、歩いて楽しめる空間になっていない。 浅間口周辺では、 ・マンション ・飲食店 ・駐車場 ・ホテル ・商業施設 などが点在しており、それぞれが独立しています。 飲食店も個別に存在しているため、「駅前へ行けば飲食店が集まっている」というイメージが形成されていません。 結果として、人が街を歩く理由が生まれにくい都市構造となっています。					
	(3)夜の賑わいを生む仕組みが不足している。 新幹線利用者やホテル宿泊者が一定数いるにもかかわらず、 ・仕事帰りに一杯飲む ・宿泊前に食事をする ・地元の人が駅前で飲んで帰る といった夜間利用を促す環境が十分に整っていません。 駅前は昼間だけでなく、夜間の魅力を育てることも重要です。					
	2. 他都市との比較から見える課題 例えば高崎駅前では、 ・飲食店が一定エリアに集積している ・ホテル、商業施設、公共施設が徒歩圏内に配置されている ・駅前広場が「通過する場所」ではなく「滞在する場所」として機能している ・昼夜を通じて人が歩く環境が整っている という特徴があります。 これは都市規模の違いだけではなく、「歩きたくなる駅前」を意識した都市構造によるものです。 一方、佐久平駅浅間口には、高崎駅前にはない強みがあります。 ・北陸新幹線停車駅であること ・軽井沢や八ヶ岳方面への玄関口であること ・ホテルが駅前に立地していること ・イオンモールなど大型商業施設が近接していること ・再整備により将来の街並みを設計できる余地があること これらの強みを活かした、「佐久平らしい駅前づくり」が必要です。	2. 他都市との比較から見える課題に対する市の考え方 他都市の先進事例や、佐久平駅周辺が持つ強み(新幹線駅、玄関口、近接する商業施設や自然環境等)を踏まえたご分析は、地域の固有性を生かした整備を進める上での貴重な視点と認識しております。本市の特性や強みを最大限に活かした「佐久らしい駅前空間」の形成に向け、具体化を図ってまいります。	他	全体	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
44	3. 目指すべき駅前の姿 再整備では、「人を集める駅前」ではなく、 「人が滞在し、歩き、自然に回遊する駅前」 を目指すべきだと考えます。 そのためには、 駅→広場→飲食エリア→ホテル→商業施設→住宅 というように、人が歩きながら複数の目的を持てる都市構造を意識する必要があります。	3. 目指すべき駅前の姿に対する市の考え方 「単に人を集めるだけでなく、人が滞在し、歩き、自然に回遊する駅前」という目指すべき姿は、本計画(案)において掲げている「ウォーカブル(歩きたくなる街)」の理念と完全に一致するものであり、大変重要な方向性であると受け止めております。駅施設と周辺エリアが連動し、徒歩で巡れる環境づくりに努めてまいります。	他	駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
	4. 具体的な提案 (1)飲食・商業機能を一定エリアへ集積する。 飲食店やカフェなどを駅前の一定エリアへ集積し、「歩いて店を選ぶ楽しさ」を創出することを提案します。 個店ではなく、エリア全体で魅力を高めることが重要です。 (2)駅前広場を滞在空間として整備する。 駅前広場には、 ・ベンチ ・緑地 ・テラス ・夜間照明 などを整備し、「待つ場所」ではなく、「過ごしたくなる場所」とすることを提案します。 (3)夜間経済を育てる視点を取り入れる。 新幹線利用者やホテル宿泊者、市民が駅前で飲食を楽しめる環境づくりを推進することを提案します。 「佐久平で一杯飲んで帰ろう」 「ホテルへ入る前に地元の食を楽しもう」 という新しい利用スタイルを育てることが、地域経済の活性化につながります。 (4)行政と民間が連携するエリアマネジメント組織の設立 再整備後も継続的に駅前を育てるため、 ・行政 ・地権者 ・ホテル ・商業施設 ・飲食店 などが連携し、駅前全体の魅力向上を継続的に検討・実行する組織づくりを提案します。 5.期待される効果 ・新幹線利用者の地域内消費の増加 ・ホテル宿泊者の滞在時間延長 ・飲食店、小売店への経済波及効果 ・歩行者の増加による回遊性向上 ・駅前ブランドの形成 ・新規出店の促進 ・若者が集まり交流できる場の創出 ・佐久市の玄関口としての魅力向上 おわりに 佐久平駅浅間口は、まだ完成された街ではありません。 しかし、それは裏を返せば、これから佐久市らしい駅前を創り上げることができるということでもあります。 私は、この駅前が単に交通の結節点ではなく、市民が誇りを持ち、来訪者が「また来たい」と感じる街へ成長することを願っています。	4. 具体的な提案に対する市の考え方 (1)飲食・商業機能の集積について: 店舗の集積など民間事業の領域とも連携し、プラザ佐久の機能更新(カフェや食文化発信等の検討)や広場でのイベント等を通じ魅力あるエリアの形成を目指してまいります。 (2)駅前広場の滞在空間化について: ベンチ、緑地、テラス、照明等の配置につきましては、安全性の確保や維持管理コスト等を総合的に勘案しながら、今後の具体的な設計段階において検討してまいります。 (3)夜間経済の育成について: 宿泊客や通勤・通学者等が夜間も滞在できる環境づくりは重要と認識しており、プラザ佐久等の活用や民間事業者との連携において検討の参考とさせていただきます。 (4)エリアマネジメント組織の設立について: 整備後も持続的に魅力を高めるため、行政・地権者・事業者等が連携する「エリアプラットフォーム」の構築・具体化を進めてまいります。 5. 期待される効果に対する市の考え方 地域内消費の増加や回遊性の向上、新規出店の促進など、示された効果は本計画の推進によって目指すべき成果像と重なるものと認識しております。持続可能な賑わいと地域経済の活性化につながるよう、官民連携のもとで事業を進めてまいります。	2	駅前広場 駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
45	佐久平駅前で事業を始め、日々この地域を利用する中で、浅間口周辺が新幹線駅の正面でありながら、人が立ち止まったり回遊したりすることが少なく、時間帯によっては非常に閑散としていると感じています。 駅前で事業を営む立場からも、この状況を地域全体の課題として捉えています。 また、私は以前、東京都に在住していました。都内で感じた魅力は、高層建築や街の規模そのものではなく、歩きやすい動線、開かれた店舗、気軽に座れる場所、カフェ、照明、植栽などが連続し、特別なイベントがなくても自然に人が集い、滞在していることです。 東京をそのまま再現するのではなく、こうした「人が集う仕組み」と空間・運営の質を、佐久の規模、自然、気候、暮らし方に合わせて取り入れていただきたいと考えます。 佐久平駅を「通過する空間」から「滞在したくなる場所」へ変えるという計画の方向性には賛同します。 その上で、既存空間の活用と浅間口側の回遊性を高める視点を、より明確に盛り込んでいただきたいと考えます。 率直に見ると、施設が小さいのではなく、空間が十分に生かされていません。 建物自体には、吹き抜け、ステンドグラス、物販、コスモス時計など、十分な素材があります。 問題は「狭さ」より、仮設感のある什器やポスター、休憩席、店舗がばらばらで、中心となる居場所がないことです。 そこで、「浅間スカイストリート」を提案します。 浅間口の自由通路を駅前広場・立体駐車場方向へ延伸し、雨・雪・風を避けて移動できる全天候型の通路とします。通路には、ベーカリー、カフェ、地域の食や物産を扱う小規模店舗、短期の試験出店区画、購入しなくても使える公共席を配置します。また、途中に階段やエレベーターを設け、地上の広場や周辺店舗へも人が流れる立体的な回遊動線としていただきたいです。 併せて、プラザ佐久については、使われていない噴水跡を安全で居心地のよい公共ラウンジへ転換し、物販・カフェ・待合・学習・休憩が一体となる「佐久のリビングルーム」として再編集することを提案します。 ステンドグラスやコスモス時計は撤去せず、佐久平駅の記憶と個性を伝える資産として生かすべきです。 また、関連する都市再生整備計画の目標値についても見直しを求めます。 蓼科口の歩行者交通量は2,582人／日から2,608人／日への増加にとどまり、増加率は約1%です。 さらに、令和11年度の駅乗車人員目標3,036人／日は、基本計画案に記載された令和6年度実績3,409人／日を既に下回っています。 「駅の活性化」を掲げる計画としては、目標設定が十分とは言えません。 資料間の整合を確認し、より挑戦的で意味のある目標へ見直してください。 通行量や乗車人員だけでなく、滞在時間、夜間・冬季の利用、再来訪、周辺店舗への送客、地域事業者の売上など、「人がどれだけ長く、どのように過ごしたか」を測る指標の追加も要望します。	ご提案のありました「浅間スカイストリート」のような大規模な空中通路の延伸につきましては、多額の整備・維持管理コストや構造上の課題を伴うため慎重な検証が必要となりますが、本計画(案)におきましては、駅から周辺への回遊性を高める「雨よけ屋根(シェルター)の連続化」や歩行者の安全・快適性を確保する視点を盛り込んでおります。 また、プラザ佐久のステンドグラス等の既存資産を生かしつつ、噴水跡地等の空間を一体的な公共ラウンジとして再編する視点は、本計画(案)で掲げる方向性と合致する重要な要素と認識しておりますので、具体的な設計段階における参考とさせていただきます。 なお、都市再生整備計画の目標数値や評価指標につきましては、特に「JR佐久平駅乗車人員数」、「佐久平駅蓼科口の歩行者交通量」など、策定後の急速な利用者の増加等により現状の実績値が先行している状況も踏まえ、本計画(案)で掲げる「滞在性の向上」や「地域経済への効果」といった視点、関連計画との整合を確認するなど、今後の都市構造再編集中支援事業における事業効果確認分析の過程で検討してまいります。	1,2	駅前広場 プラザ佐久 自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
46	佐久平駅周辺の再整備にあたり、若者や子育て世代が誇りを持て、東京圏からの移住・誘致や観光客の滞在を強力に促せる「近未来的な価値と自然が調和した街づくり」を目指していただきたく、以下の具体的な提案をいたします。 1. 景観の保全と最先端「実験都市」の融合 美しい田園風景という佐久平本来の魅力を過度に損なう拡張ではなく、自然環境をスマートに守りながら、高輪ゲートウェイ駅のような最先端技術やデザインを取り入れた「モダンな実験都市」としての整備を希望します。 特に、佐久平周辺の「平坦で開けた地形」という最大のメリットを活かし、次世代の自動運転バスや配送ロボット、パーソナルモビリティ等の試験運用・実証実験を積極的に行う先進都市としての機能を持たせてください。 また、スマートな街並みを構築するため、無電柱化を徹底し、安全で開放感のある視界を確保してください。さらに、駅構内や周辺施設に、雄大な浅間山を裾野まで一望できるテラスや展望スペースを設けてください。 2. 移動インフラの強化と安全性の確保 ・駅南側の開発に伴い、歩行者や自転車が安全に通行できる快適な歩道の整備を最優先にしてください。 ・電気自動車の普及を見据え、Teslaスーパーチャージャーなどの高速充電可能な設備の設置を強く要望します。 ・移動利便性の向上のため、タイムズなどのカーシェア台数の大幅な増車、およびシェアサイクルの新規導入を検討してください。 3. 駅直結施設の魅力向上と「滞在・ワーケーション」空間の創出 現在のプラザ佐久の機能を見直し、軽井沢T-SITEのように人々が自然と足を止めて滞在したくなる空間が必要です。新幹線を待つビジネスパーソンや2拠点居住者の「コワーキング・ワーケーション需要」を取り込めるワークスペースを併設し、駅直結でブルーボトルコーヒーのような質の高いカフェを誘致してください。その際、提供フードや土産物には佐久地域の特色あるローカル素材を活かし、駅の多方向（月と雲の広場側など）へ抜けられる回遊性の高い構造への改修を求めます。 4. ナイトタイムエコノミー（夜間経済）の活性化と飲食店誘致 新幹線の利用者が素通りせず、夜間も地域で消費活動を行えるよう、駅直結で魅力的なバルや居酒屋、ご飯屋さんのゾーンを整備してください。夜の賑わい（ナイトタイムエコノミー）を創出することが、佐久平の経済活性化に不可欠だと考えます。 5. 既存商業施設のあり方の抜本的見直しと次世代拠点の構築 現在のイオンモール佐久平については、松本市のイオンモールのような活気に乏しく、施設の老朽化や魅力の低下が顕著です。将来的なリニューアルの枠に留まらず、全く別の次世代型施設への転換も含めた検討を求めます。 具体的には、建物内で完結する「内包型施設」から脱却し、外の空気を感じながら歩ける開放的な空間設計、ユニクロやGUなどモダンな店舗の誘致、若い世代のデートスポットや子育て世代が集まれるコミュニティ施設を官民連携で構築してください。 6. 観光・移住者向け宿泊施設と「健康寿命」を体現する機能 ・観光客やビジネス客の誘致に向け、アクアホテルプレミアムのような、洗練されたモダンなホテルの誘致を希望します。 ・佐久市が強みとする「健康寿命」を体現するため、市民や滞在者が天候を気にせず気軽に利用できる最新のフィットネス施設の併設を提案します。また、駅構内のデッドスペースを活用したボルダリングやデジタルアート空間など、健康と遊び心を掛け合わせた仕掛けも期待します。	1. 景観の保全と最先端「実験都市」の融合 浅間山等の豊かな眺望を生かす視点や、美しい景観に配慮した空間設計は、佐久市の玄関口として重要と認識しております。本計画（案）におきましても、駅前広場やミレニアムパーク等の整備において「みどり豊かで環境の良い空間づくり」や良好な景観の確保を盛り込んでおります。 また、次世代モビリティ等の実証実験や無電柱化等の先進的な取組につきましては、今後の社会情勢や技術動向を踏まえ、スマートシティ推進等の関連施策や関係機関との連携の中で検討の参考とさせていただきます。 2. 移動インフラの強化と安全性の確保 歩行者や自転車の安全な通行空間の確保、および二次交通等の移動インフラの強化は、広域交通拠点としての利便性を高める上で重要な視点と認識しております。歩行者動線の安全確保につきましては、今後の駅前広場等の具体的な設計業務の中で適切な配置等を検討してまいります。 また、EV充電設備の拡充やカーシェア・シェアサイクル等の導入につきましては、設置スペースや運営事業者との連携、維持管理面等を総合的に勘案しながら、今後の検討の参考とさせていただきます。 3. 駅直結施設の魅力向上と「滞在・ワーケーション」空間の創出 プラザ佐久の機能更新につきましては、本計画（案）において「カフェ・ブックギャラリーの設置」「ワークスペースの充実」「食文化を味わう拠点整備」等、また、1階店舗の窓を駅前広場側に開閉できるようにするなど、広場との連続性や回遊性を向上させる取り組みイメージとも類似しております。 いただいた質の高いカフェやワーケーション機能、地場産品の活用に関する具体的なご提案につきましては、設計や社会実験を通じ、具体的な導入機能や整備内容について検討を進めてまいります。 4. ナイトタイムエコノミー（夜間経済）の活性化と飲食店誘致 本計画（案）におきましては、「食文化を味わう拠点整備」等を取り組みイメージとしながら人々が集まり、滞在・交流し、多様な活動を生み出すことを目指しております。 ご提案の飲食店やバル等の導入につきましては、民間事業者の出店意向や採算性、運営管理体制等を勘案しつつ、設計やまちづくりの検討の中で参考とさせていただきます。 5.既存商業施設のあり方の抜本的見直しと次世代拠点の構築 市の考え方案： 本計画（案）におきましても、官民連携による「エリアプラットフォーム」の構築を掲げており、駅周辺エリア全体での賑わい創出や回遊性の向上を目指しております。 民間商業施設の建て替えや店舗誘致等は事業者による領域となりますが、いただいたご意見を踏まえ、エリアプラットフォーム等を通じ周辺事業者と方向性を共有しながら、魅力あるまちづくりを進めてまいります。 6. 観光・移住者向け宿泊施設と「健康寿命」を体現する機能 ホテルやフィットネス施設の整備・誘致につきましては、主に民間事業者の投資動向や市場性による領域となりますが、本計画（案）においても既存施設の機能更新や利活用を掲げております。 ご提案いただいたデッドスペースの活用等の導入につきましては、今後の設計やまちづくりの検討の中で参考とさせていただきます。	1,2	プラザ佐久駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
47	結論から言うと、この計画案は「にぎわい創出」という目的に対して一定の効果は期待できるものの、現状のままでは「にぎわいが持続する仕組み」が弱く、ハード整備中心で終わってしまうのではないかと考えます。 1　ハード整備の方向性は妥当だと考えます。 エスカレーター設置、天候に左右されない動線、暗さ・寒さの解消、送迎車の渋滞緩和（滞在空間の安全性向上）、マルシェ・キッチンカーなどのイベント空間整備、ブックギャラリー・カフェ、立ち飲みバーなどの滞在拠点といった、滞在時の満足度を上げるポイントは賛成します。 2 にぎわい創出の観点から見た改善点 (1)にぎわいを生むには「人が来る理由」が必要。 現状の案では、カフェ、ブックギャラリー、ワークスペース、マルシェなどが挙げられていますが、これらは「補助的なにぎわい」であり、核にはなりにくいのではないか。 にぎわいの核となる常設コンテンツを設けるべきではないか。 例: ・佐久地域の食文化を体験できる「常設フードホール」。 →とはいえ、地元民の利用がにぎわいの核となるはずであるため、観光客向けの食文化発信だけでなく、県内最先端な飲食の集まりをつくることも必要。つまり、首都圏の「エキナカ」的なコンセプトを佐久平駅でも実現する。 ・地域のブルワー、酒蔵、ワイナリーと連携した「佐久テイスティングセンター」 →お酒は必須。ここには人が集まる。新潟駅、高崎駅、長野駅が好例。 ・子ども向けの「全天候型プレイパーク」 →移住希望者にも刺さるポイントとなる可能性（八千穂道の駅が好例） 計画案にも「食文化発信」「遊び場」があるが、具体性やストロングポイントが弱い。 (2)イベント依存型で日常のにぎわいが弱い？ 計画案はイベントを強調していますが、イベントは「瞬間的なにぎわい」であり、日常の賑わいを生む仕組みが不足しているのではないか。(計画案にも「閑散としている」という課題が記載されている。) 改善案:日常利用を増やす仕組みを追加すべき（機能的には既に記載があるものもあるが、意図を明記してはどうか） ・通勤・通学者が毎日使う「朝のコーヒースタンド」 ・仕事帰りに立ち寄る「立ち飲み角打ち」(小海線利用者や東京へ帰る出張者) ・学生、ビジネスマンが使う「無料学習・ワークスペース」 ・地域住民が使う「小規模図書・学習ラウンジ」 これらは(1)と通ずるものもある。「日常利用者の滞在時間を伸ばす」仕組みが必要。 とは言え、小諸駅＋まちたね広場をひとつの好例にして、駅周辺ハード整備に取り掛かるまでの間に、まずはイベント回数を増やしていくことが現実的か。 (3)プラザ佐久の再整備が「にぎわいの中心」になっていない 計画案ではプラザ佐久に多くの機能が書かれているが、駅前広場との連動性が弱い。 計画案に「1階店舗の窓を駅前広場側に開閉できるようにする」とあるが、これだけでは「にぎわいの核化」には弱いのではないか。 改善案:プラザ佐久を“駅前の顔”にするべき ・1階を全面的に「開放型フード＆カルチャーゾーン」に再編 ・2階を「ワーク・学習・イベントの複合スペース」に（必須であるフリーWi-Fiは現在の佐久市のWi-Fiではセキュリティ面がぜい弱でデバイスによっては使用ができないため改善必要） ・自由通路と直結する“視認性の高い導線”を確保（自由通路は保温性が必要） プラザ佐久が「にぎわいの中心」にならないと、広場の活用も弱くなる。計画案にも「歩きたくなる道の整備」という事業者ニーズが記載されている 。 改善案:目的地をつくることが先 駅 → プラザ佐久 →　イオン → 市民交流ひろば →サンスクエア このルートに「立ち寄りスポット」を配置、設置することが必要ではないか。特に、駅と交流ひろばの間の空間を活用すべきではないか。「歩く理由」がないと回遊性は生まれない。 いずれも現在の建物だけでかんがえるのではなく、駅前広場への拡張も検討すべき。 3　運営体制 計画案にも「エリアプラットフォームの必要性」が書かれているが、実際には運営の仕組みが非常に大事だと考えます。	1　ハード整備の方向性について 屋根の連続化やロータリーの改善、滞在拠点の整備等につきましては、今後の具体的な設計段階において費用対効果や構造等を考慮しながら精査を進めてまいります。 2　にぎわい創出の観点から見た改善点 本計画(案)におきましても、プラザ佐久の機能更新として「カフェ・ブックギャラリーの設置」「ワークスペースの充実」「食文化を味わう拠点整備」等、また、「1階店舗の窓を駅前広場側に開閉できるようにし開放感を向上」させる取り組みイメージを提示しております。 ご提案いただいた常設の食・酒文化の発信拠点や日常的な学習・ワークスペース、子ども向けの遊び場機能、通信(Wi-Fi)環境の改善、周辺施設への回遊性を高める拠点配置等につきましては、日常利用や滞在時間を伸ばす上で重要な視点と受け止め、設計や機能配置の検討の中で参考とさせていただきます。 3. 運営体制 本計画(案)におきましても、官民連携による「エリアプラットフォーム」の構築や社会実験の実施を掲げております。ハード整備にとどまらない持続的な運営体制の確立に向け、いただいたご意見を今後の組織化や取組内容の検討に生かしてまいります。	2,3	駅前広場 プラザ佐久 駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
48	【トイレ】 ・男女ともに個数が足りない ・和式は必要か ・1階にしかない 【喫煙所】 ・指定の場所を設けた方が見た目も良い 【案内所】 ・2階の店舗が案内所を兼ねていることを認識しにくい ・施設内の案内看板をわかりやすくしてほしい ・デジタルサイネージを設置してはどうか ・エフエム佐久平にお尋ねがよく来る 【施設の配置】 ・自動ドア(1階出入口)からの視認性が良くない ・中央の階段、エスカレーター、噴水の配置が良くない ・飲食店の排気について(局内にもにおいが充満することがある) ・再整備の際にはエフエム佐久平の位置についての検討に参加したい ・イベントスペースがあると良い	【トイレ】 便器の洋式化や必要な個数の確保、各階への配置等につきましては、施設全体の動線計画や改修に伴う配管等の構造的条件、維持管理面を総合的に勘案しながら、設計や機能配置の検討の中で参考とさせていただきます。 【喫煙所】 喫煙所の新設につきましては、受動喫煙防止の観点や歩行者の動線確保、設置場所の選定、維持管理体制等の課題を総合的に勘案しながら、設計や機能配置の検討の中で参考とさせていただきます。 【案内所】 本計画(案)では、佐久の魅力を発信する情報発信の強化についても掲げており、案内サインの視認性向上やデジタルサイネージの活用、案内機能の配置や運用方法につきましては、関係機関との協議を進めながら、今後の設計や運営計画の中で検討を行ってまいります。 【施設の配置】 出入口からの視認性の確保や中央階段・エスカレーター等の動線配置の見直し、噴水跡地の活用、飲食店舗の排気等の環境改善、イベントスペースの確保につきましては、今後の具体的な設計業務の中で構造や設備条件を精査しながら検討してまいります。 また、配置等の検討にあたっては、入居事業者等のご意見も伺いながら進めてまいります。	1,2,3	プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	
49	佐久平駅隣地のミレニアムパークも普段は、人も閑散としており、有効活用できていないように感じております。駅前なのに有効に活用されておらず、勿体ないと感じております。駅前の一等地でもあるので、ミレニアムパークも含めた一帯の有効活用を計画していただきたい。	ミレニアムパークは駅前広場と一体的な再整備も検討できることから、全体の整備対象範囲を拡張した計画へ見直しを図ります。 また、公園空間を含めた一帯の有効活用につきましては、今後の設計業務における動線や空間の再編検討に加え、官民連携による「エリアプラットフォーム」の構築や社会実験等を通じ、利活用の検討をしてまいります。	他	駅周辺	今回の基本計画に反映できる事項	
50	佐久平駅へ送迎で行くと送迎用車両で駐車できないケースが多く、また、日中、新幹線利用で周辺駐車場を利用する場合、既に満車でどこも駐車できないケースが多いので駐車車室数を増やして頂きたい。一方で、佐久平駅から出ての一等地が駐車場だらけなのも、観光で訪れた方々からすると佐久地域の玄関口としての魅力が減少すると考えられます。 また、駅前と言う、本来、人が集まる場所の賑わいが無くなってしまう懸念も考えられます。「駐車場不足の解決」と「賑わいとしての駅前」の街づくりのトレードオフの解決として地下駐車場、若しくは、1, 2階は人の集まる施設(商業施設や図書館など)として、3階以上を立駐などにするなど、駐車場の確保と併せ、地上には、人が賑わいを見せる街づくりに留意した計画としていただきたい。	本計画(案)におきましても駅前広場再整備による「送迎スペースの拡張」や適切な車両誘導を取り組みイメージに掲げております。また、既存スペースの有効活用として、予約型シェアリングサービス「akippa」の運用開始や、民間駐車場における立体化工事の動きなどにも対応しているところです。 ご提案の「地下駐車場」や「低層部を商業・交流施設、高層部を立体駐車場とする複合整備」につきましては、多額の整備費や構造・設備上の課題を伴うため、現段階で市が主体となって整備を行うことは困難と考えておりますが、土地の有効活用を図る上での貴重なご意見とさせていただきます。 今後は、プラザ佐久の機能更新や快適な歩行者空間の整備を通じて人々が集い活動する場を確保しつつ、周辺の駐車需要や民間開発の動向を注視してまいります。 駐車場確保に関しましては、いただいたご意見を踏まえ、全体の整備対象範囲を拡張し、送迎用待機スペースや月極駐車場等の確保に向けた計画に見直しを図ります。	1,2	駅周辺	今回の基本計画に反映できる事項	
51	今後、計画されている常田赤岩線の延伸に伴い、浅間口も利用者が増える可能性があり、駅への送り迎えの駐車なども増えると思われますので、 浅間口の送迎用駐車利用が増えることも想定した駅前整備をお願いします。	本計画(案)におきましても、駅前広場の再整備における「送迎スペースの拡充」や「適切な車両誘導・乗降機能の確保」を取り組みイメージに掲げております。 いただきましたご意見を踏まえ、今後の具体的な設計段階において、周辺道路の整備状況や将来的な交通動向を勘案しながら、浅間口における安全で利用しやすい駅前空間の整備に向けた検討の参考とさせていただきます。	1	駅前広場 駅周辺	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	

番号	意見	市の考え方	基本方針	施設	計画への反映	備考
52	階段アートによる健康促進と駅の魅力向上 提案内容: **駅構内や周辺の階段に、「バルーン」や「佐久鯉」「鯉太郎」「浅間山」などで階段アートやトリックアートを施すこと**を提案します。 理由・効果: 「歩きたくなる階段」にすることで、「健康佐久市」といわれる所以を実践、また、市民や駅利用者の日常的な運動習慣の定着に寄与します。また、駅に降り立った瞬間に佐久市らしさを感じられる、新フォトスポット・ウェルカムアートとしても機能します。	本計画(案)におきましても、玄関口である駅から佐久の魅力を発信することを基本方針としており、ご提案の階段等へのアートの施工にあたっては、歩行者の安全な通行や足元の視認性確保、バリアフリー対応、今後の維持管理面などを総合的に勘案し、今後の具体的な設計や空間演出の検討における参考とさせていただきます。	3	自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	全体の取り組みに「佐久らしさや洗練されたデザイン空間づくり」を追記
53	歩行者優先の「ピンコロウォーク専用道路」と回遊性向上 提案内容: 佐久平駅からミレニアムパーク、佐久市サンスクエア、市民交流ひろばへと繋がるルートを、楽しく安全に歩ける「ピンコロウォーク専用道路(ウォーキングコース)」として整備することを提案します。あわせて、歩くと音が鳴る「メロディライン」の遊び心ある仕掛けの導入も検討してください。 理由・効果: 周辺施設への回遊性を高め、エリア全体の賑わいを生み出します。「ぴんころ(健康長寿)」の文化を駅周辺の街づくりに落とし込むことで、多世代が楽しみながら歩ける健康的なウォーキング環境が整います。	本計画(案)におきましても、自由通路、駅前広場、プラザ佐久の具体的な整備にとどまらず、市民交流広場や歩道などの公共空間との関連性を高め、回遊性向上やにぎわい創出など、エリア一体的なまちづくりを進めることとしております。 ご提案の歩道は直接の対象範囲には含まれておりませんが、健康長寿をテーマとしたまちづくりやエリアの回遊性を高める貴重な視点として受け止め、今後の官民連携による「エリアプラットフォーム」での具体的な活用策やソフト事業の検討における参考とさせていただきます。	他	駅前広場 駅周辺	実現・計画に反映が困難な事項	
54	駅構内への「デジタルビューイング(巨大な空)」の設置 提案内容: **駅構内の壁面や天井を活用し、佐久市の美しい「広大な空」や移り変わる四季の景色を映し出す大画面のデジタルビューイング(映像演出)の設置**を提案します。 理由・効果: 駅周辺の開発が進みビルが増えても、駅に一歩足を踏み入れることで「佐久市の誇る美しい空と自然」を体感できます。屋内空間に開放感をもたらし、観光客への強力なシティプロモーションにも繋がります。	本計画(案)におきましても、玄関口である駅から佐久の魅力を発信することや、情報発信機能の更新・強化を基本方針としております。 巨大な映像演出設備の設置につきましては、導入費用や維持管理、設置場所の構造的条件などを総合的に勘案し、今後のデジタルサイネージの活用や空間デザインの検討における参考とさせていただきます。	3	自由通路 プラザ佐久	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	全体の取り組みに「佐久らしさや洗練されたデザイン空間づくり」を追記
55	市民参加型による「駅のBGM(野鳥のさえずり)」の導入 提案内容: 通路で流すBGMとして、野鳥の会の協力などを得て、**佐久平に生息する野鳥のさえずりを持ち寄ってもらい、活用**することを提案します。 理由・効果: 五感を通じて佐久平の豊かな自然をアピールできます。また、「市民の手で駅の環境を作る」という市民参加型の街づくりとなり、地域への愛着を育むきっかけになります。	本計画(案)におきましても、玄関口である駅から佐久の魅力を発信することや、情報発信機能の更新・強化を基本方針としております。 駅アナウンスや緊急放送等の聞き取りやすさ、音環境への配慮、音源の管理・運用方法などを総合的に勘案しながら、市民参加型の取り組みや魅力発信施策の検討における参考とさせていただきます。	3	自由通路	基本設計・実施設計時に検討・反映する事項	全体の取り組みに「佐久らしさや洗練されたデザイン空間づくり」を追記